第717号 平成17年2月20日発行（毎月20日発行）
昭和49年8月31日　第三種郵便物認可

2005年（平成17年）
2月号（No. 717）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円
URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-room@jac.or.jp

「海外の山」1985〜2005

江本　嘉伸

ホットな話題を追って毎月1度「海外の山」を書きはじめて20年がたった。私は大した山登りはしていないが、山を通じて得られるものに関しては貪欲だ。海外登山という、ある意味で恵まれた行為についてもできるだけ良いものを引き出し、何かを学びとりたい、と考えている。登山する人と登山の質は、その時代をうつす鑑（かがみ）と言えないこともない。個人の意志でやっていると思っている挑戦的な行為も、実は当事者も気づかないうちに背景の政治、経済の動きに大きな影響を受けていることもある。毎月のコラムでは書ききれなかったことがらを含め、海外の山をテーマに、この20年を振り返ってみた。日本山岳会100年の意味を「理解する」ことの少しでも足しになれば、と願う。

大変貌の20年

「海外の山」は、1985年2月（476号）の「韓国の登山界」から先月号の「2005年1月の風景」まで書き続けた。海外出張など筆者自身の都合、あるいは会務報告など会報のスペース上の理由での休載は13回あり、掲載回数で言うと228回となる。

1985年から2005年という20年は、「海外の山」というテーマでは、最も大きな変化のあった20年である、と思う。8千メートル峰の初登頂はとうに終わっているし、困難な課題もあちこち決着がついた。すでにヒマラヤの黄金期は過ぎて、「公募登山」とか「大衆化」とか、わけのわからない時期に入っているのでは、と見る向きもあるかもしれないが、それは狭い見方だ。

日本山岳会の成り立ちもそうだが、登山は各国とも上流階級というか、インテリ層の余暇から発した。それも、西側各国が牽引車となり、時にはアジアのヒマラヤの国の住民を「教育」し、発展させていった。「日本山岳会」という名がいまもブランドとして一部の人々に憧れの念を持たせるのは、100年続いてきたそうした歴史への畏敬の念からだろう。

山高きが故に尊からず、と言われるが、「海外の山」で世界最高峰エヴェレストが最も登場回数が多く、228回中、66回を数えた。テーマにしやすい山であるのはもちろんだが、これは一にも二にも、ヒマラヤ登山の変貌ぶりが象徴的にこの山にあらわれたからである。

85年12月号の「延べ201人のエヴェレスト登頂」は、正直かなりの驚きで書いた。初登頂から「わずか32年で」この数に達したことへの驚きである。その驚きがいわゆる商業公募登山の拡大とともに、笑い話になってしまった。

ヒラリー、テンジンが初登頂を

目　次

「海外の山」1985〜2005 …… 1
100周年ニュース …… 4
報告 …… 5
　科学・講演会「日本の山・世界の山」／事業・中央分水嶺踏査・2005マナスル登山隊上高地山研で年越し
東西南北 …… 8
　地形図と地質図からみた分水嶺／ヤマビルの話／日本山岳会に三代入会した家系／入会50年と入会時の追憶／ウェストン夫妻と妙高山登頂
Climbing & Medicine・42 …… 11
会務報告 …… 12
新入会員・図書受入報告 …… 13
INFORMATION …… 14
ルーム日誌 …… 15

▶日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木 …… 10〜20時
水・金 …… 13〜20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 …… 10〜18時

なしとげて半世紀の2003年は過去最高の261名がエヴェレストに登頂した（70歳の三浦雄一郎も5月22日に登頂して世界を驚かせた）が、この傾向は変わらず、04年には通算実に2200人を上回る人がエヴェレスト・サミッターになった。普通の市民が登りに行く山となったのだ。

世界最高峰登山のあまりの変貌ぶりに、多くの人々は冷静になろう、動じまい、とした、と私は思う。しかし〝裸のサル〟がここまで熱心に高みに登る意志を鮮明にし、実行に移しはじめたことは、大げさに言えば人類史上のエポックだと思う。

ウェア、靴、テントなど装備の軽量化、商業公募登山の定着が大きな理由だが、何よりも、ヒマラヤの住民たちの登攀力が格段に向上したため、と言っていいだろう。

テンジンの再評価

『National Geographic』誌は、今年になって「exploration－77best pictures of great adventure」という、探検・冒険史写真の特別版（2005年4月25日版）を発行した。極地、海中、空中、砂漠、洞穴などでの貴重なショット77点を集めたもので、登山ではたとえば、1924年エヴェレストのノースコルで頂上に向かうマロリーとアービンをオデルが撮った写真も入っている。

この特集で編集長が「my top 10 explorers」として私見で「トップ10人」をあえて選ぶ試みをしている。

コンチキ号で漂流したトール・ヘイエルダール、月に着陸したアポロ11号の乗組員、チンパンジー研究に捧げたジェーン・グドールなどをおさえて、トップに選ばれたのがエヴェレストに初登頂した、エドマンド・ヒラリーではない、テンジン・ノルゲイだった。

テンジン・ノルゲイ（86年5月9日死去・72歳だった）については、「テンジンの悲しみ」として499号に書いた。ヒラリーとともにエヴェレスト初登頂の栄光を背負ったが、晩年は「皆、私のことを忘れてしまった」と、不遇をヒラリーにもらしていたことなどを紹介した。

外国登山隊に「雇われて登る」仕事人、という先入観をシェルパたちについて抱きがちだが、振り返ってみれば、テンジンは特別だった。エヴェレスト初登頂に情熱を燃やして何度も挑戦、52年にはスイス隊のレイモン・ランベールとともに頂上直下300メートルまで迫った人間がついに登ったという意味で、ヒラリーよりも登山史上シンボリックな人物だった。

ともあれ、テンジンのプライドは、危険は伴うが、顧客の喜びのために力を尽くす新たな経済行為、ヒマラヤン・ガイドとして次代に受け継がれた。

プラザ合意・冷戦終結・中国開放経済

普通の市民がヒマラヤに通う条件として、資金の問題がある。当初は1ドル＝360円の障壁があった。それが紆余曲折を経て1985年9月の「プラザ合意」で一挙に跳ね上がった。プラザ合意前夜の東京市場では、1ドル＝242円であったが、88年の年初には128円となり、海外渡航は、実に手軽なものに変貌していった。プラザ合意は日本の輸出力を弱めた元凶といわれるが、登山はその大いなる恩恵を受けた。山登りという創造的な行為が、一面で「消費」の性格を持ちはじめた、とも言える。

ゴルバチョフの出現と冷戦終結の影響も、この20年の大きなできごとだった。

85年当時、注目されていたのが、ラインホルト・メスナーをはじめとする登山家たちのヒマラヤアルパイン・スタイルの成果と、ポーランド隊の強さだった。

ラインホルト・メスナーは、86年10月16日、ローツェを登って14座全山無酸素登頂をなしとげた。「フェアなやり方で8千メートルを」と言い続けたメスナー。彼以後、先鋭的な登山家は14座派と美しい壁を目指す個性派に分岐したようだ。

1980年、エヴェレストの冬期登頂をなしとげたポーランド人たちは84年にはマナスルの冬期初登を果たし、イエジ・ククチカは、85年1月から2月にかけて、8千メートル峰ダウラギリとチョー・オユーの冬期連続登頂に成功した。

最高峰でも2500メートルに満たないこの社会主義国からどうしてこんなに強い登山家が生まれるのか、不思議だった。だから、86年5月中旬、日本山岳会の招きで冬期エヴェレスト隊のアンジェイ・ザヴ

ァダ隊長（当時57歳・故人）以下7人のクライマーたちが来日した時の発言に注目した。

ソ連、ドイツの大国にはさまれ、150年にもわたって国が分割されていたことなど国の困難な歴史が私たちを強くしたと思う、とザヴァダは話してくれた。逆境が強いクライマーを育てることもあるのだ。

そのことはソ連の登山家たちにも通じることだった。海外に出たいために、国内での熾烈な競争を経てヒマラヤに向かうソ連の登山家たちの強さは82年のエヴェレスト南西壁・ソ連ルートの登攀にもあらわれている。

85年のゴルバチョフ登場とペレストロイカは、登山界にも影響を与えた。東西の登山家たちの交流が強まり、ヒマラヤ参入のパターンは多岐にわたった。ソ連崩壊後、一部の旧ソ連登山家は公募隊のガイドとなり、酸素ボンベ、軍事用大型ヘリコプターなどがヒマラヤで〝平和利用〟されていることは繰り返し書いた。

社会主義国の中国でも80年代になって鄧小平の経済開放路線がうち出され、劇的な変化を遂げた。北京の中国登山協会がすべてを握っていた登山についても、チベット登山協会のような地方の権限が強化され、経済行為を含めて独自な登山活動を展開できるようになった。外貨をあてにしていた国家的登山も最近は、「金はある、自分たちの登山をやりたい」という市民志向にシフトしつつあり、裕福になった人々によるチョモランマ登山も実行されている。

高峰のひしめく舞台、チベットそのものも様変わりした。2008年の北京五輪に向けてチベットのゴルムド（青海省）―ラサ間に鉄道の敷設工事が進んでおり、チベットがどこまで変貌してしまうのか、大いに気にかかるところだ。

ひとつの宝『垂直の記憶』

日本人の海外の山での活躍となると、どうしても優れたクライマーの死にふれないわけにいかない。84年2月にマッキンリーに消えた植村直己はじめ、この20年、名をあげきれないほど多くの登り手がヒマラヤや他の外国の高峰から帰らなかった。

そんな状況の中で、最も困難な壁に挑み続けてきた人間、それも世界が知っているクライマーとして、山野井泰史・妙子夫妻の活躍だけには言及しておきたい。

02年秋、山野井夫妻のギャチュンカンからの生還については、「ギャチュンカンで起きたこと」（691号）として3ページをさいて紹介した。夫婦は98年、マナスルで雪崩に埋まり、妙子が泰史を掘り出して、間一髪生還したこともある。しかし、04年春に山野井が出版した『垂直の記憶』を読んで、「生還」ばかり強調するのもどうか、と反省した。この書はクライマーが書いたものとして登山史に残る傑出した内容であり、この十数年の山野井のクライミングがつめこまれている。いい本は買うべし。日本山岳会の会員なら一読することをおすすめしたい。

この20年は、14座とか、7大陸にはじまるナンバー登山、無酸素、最高齢、最年少、女性、スピード、カップル、父子、障害者、スキー、スノーボード、パラパウント、などの話題登山が注目された時でもあった。

また、氷河の後退、ベースキャンプの汚染など環境の問題が何かと取り上げられた20年でもあった。遭難した登山家が氷河の中から遺体となって発見されるケースも、ヒマラヤ、アルプスでは目立った。

ASEAN諸国はじめ、ヒマラヤと無縁だった各国が参入したのも、この20年のことだ。多くの国々にとって、エヴェレストはまだ国威発揚の場でもある。

1985〜2005年まで20年の「海外の山」を振り返ってみて、評価というものもまた、変貌することを実感している。その当時は正しい見方であっても、10年、20年たつとほかの事実や背景も絡んで、より俯瞰的な見方を強めなければならないものもある。

海外登山という歴史の中で、日本は中進国に近い先進国くらいに位置するのかもしれない。政治や経済の風圧を最小限にして登り続けてこられたという意味で、幸せであったとも言えるだろう。

が、現状は明らかに低迷しているように見える。

「海外の山」20年、枠を飛び出して新しいものを切り拓く人たちが、次の20年の評価を作り上げていくのだろう。

『新日本山嶽誌』の発刊にあたって

編集委員長　高木 泰夫

名著『日本山嶽誌』が第２代会長・高頭式氏の手によって上梓されたのが明治39（1906）年、明年が100年目に当たる。また今年は本会創立100年にも当たっている。これを記念して標記の『新日本山嶽誌』をナカニシヤ出版から発刊する運びとなった。

しかし本書は高頭氏の編集姿勢は踏襲するが、山の選定および叙述についてはこれにとらわれないものとすることとした。高頭氏は超人的な努力によって有名無名の山岳を数多く取り上げているが、当時としては登山そのものが端緒についたばかりであったため情報は限られていた。それから100年、登山界の発展とともに、われわれは国内外の山岳に関して膨大な情報を今、手にしている。そして近時、自然の改変が急速に進み、各所で滄桑の変が起きていることはご存知のとおりである。この現状を多面的に記述し後世に残すことは十分意義があるし、すべての支部が参画できる創立100年を記念する事業にふさわしいものとして、大方の賛同を得て編纂にとりかかった。今から7年前のことである。以来数回、全国各支部の編集担当委員が集まって、内容を検討し、以下の成案をみた。

その内容は山岳概説として「日本山脈の特徴」「日本の山地の特徴」「山地別の解説」を、明治大学の小疇尚教授ほか３氏によって執筆していただくことになった。また各論は各山座が位置する支部で担当しており、今後多少の変動があるものの、とりあげた山座数がおおよそ2850座、菊判で約2000ページを超え、これにかかわった執筆者数は475人にのぼる大冊となった。これらの山座は３階級に分けられており、Ａ級は深田百名山に相当する山として190座、Ｂ級は当会が選出した日本300名山に相当する山として473座、Ｃ級は残余の山として2191座、総数2854座である。おそらくこのような有名無名の山岳に関する情報を一書におさめたのは空前のことであり、今後もこれがスタンダードとなって各山岳について語られることであろう。

そして本書では、これらの山座が山系または山脈別に、原則として北から南へ、東から西へと配列している。これがもっとも自然な分類法と考えたからである。しかし日常生活は行政の区分にしたがっているだけに、さまざまな苦労があったことは言うまでもない。多くの県境は山脈によって分けられているため、県境上の山岳をいずれの支部で担当するかについては、簡単に決着がつくものではなく、紆余曲折はあったが、関係者の互譲の精神でもって解決した。

また、従来はこうして日本全体の山岳について述べようとするとき、どうしても東高西低の傾向は免れなかった。高山が東日本に偏在しているためである。しかし、登山の対象としての山を単に標高だけで選別するのではなく、その地域でもっとも高い山を目指すのもひとつの登山形式と考えるならば、西日本にも数多くの取り上げるべき山岳があるはずである。この姿勢から本書は西日本の山はたとえ標高が低くても地域の山として積極的に取り上げたのも特徴のひとつである。

なお、現在かかえている問題のひとつに、市町村の合併に基づく行政地名の変更がある。あるいは新規合併があり、また解消があり、目まぐるしく変更が重ねられている。したがって2005年４月１日現在の帰属で市町村名を記載することにした。しかし本書の発刊を一応本年10月としているのでその間に変更があることは十分に考えられるが、以上のような理由によって正確を期しがたいことをご理解いただきたい。

ところで、大方は県ごとに支部が置かれており、各支部で選出された編集委員を中心に、山座の選定から執筆までを進めていただき、厚く御礼申し上げたい。しかし関東地区の7都県、関西地区の９府県には都府県別の支部がないため、この地域を担当された大森久雄氏（関東地区）、柏木宏信氏（関西支部）にはとくに貴名を挙げてそのご苦労に感謝の意を表したい。

末尾になったが、本事業を推進するに当たって、物心両面にわたってご支援くださった歴代会長、副会長、理事、支部長ほか関係の各位には厚く御礼を申し上げたい。

報告

2月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

科学委員会

講演会「日本の山・世界の山」

11月18日、日本山岳会ルームにおいて「日本の山・世界の山」と題して講演会が開催された。講師は明治大学教授・小疇尚氏で平成13年3月以来2度目の講演である。

今回の内容は日本の山と海外の山との形や成り立ちについて、スライドとOHPを駆使して1時間強にわたる講演であった。

地球上の陸地の3分の1は山であり、世界の山全部を見た人はいないのではないか。

大山脈には3つの成因があり、1つは大陸間のプレートのぶつかり合いで押し上げられ大規模な山脈として誕生し、ヒマラヤなどに代表される。ここはユーラシア大陸に南のインド亜大陸が衝突し、その縁が隆起して生まれた。また7000メートル以上の山があるのは、ヒマラヤを含むチベット高原の周辺だけである。2つ目は海洋プレートが大陸プレートの下に潜り込んでできるもので、南北アメリカ大陸の太平洋岸の山脈。3つ目は海洋プレート同士の衝突によるもので、太平洋の西側の弧状列島（島弧）で前面に海溝があり活火山が並んでいる。

島弧では山の規模が比較的小さく、富士山、台湾の玉山、ニュージーランドのマウントクックなどで、いずれも最高峰は4000メートルに満たず、その成因によって高さに限界があるようだ。

山は誕生とともに姿、形をかえてゆくが、それには1、山脈のでき方　2、山の地質　3、山の浸食作用　4、時間、の4つの要因がある。今回は山の姿を決める大きな要因としての山の削られ方を重点に説明された。山をけずる道具として氷河、川、残雪等がある。日本の山は氷河の作用は少なく、川や残雪によることが多い。

それに対し、外国の山は氷河の作用によるものが多い。氷河による浸食は、山頂直下の谷頭から滑りだした氷河が両岸を削り取り、U字谷を形成し、その圧力により横に広がる傾向がある。氷河が山地から離れ山麓氷河になると、氷河は扇状に広がり、浸食力を失う。

そこにはモレーンができ谷側には細長い氷河湖が出現し、氷河が海に押し出すと先端が浮いて岩盤の浸食作用が衰えて、山麓氷河と同様に奥の深いフィヨルドが形成される。一方で氷河の上部では足元が削られるので、急峻な岸壁ができる。さらに氷河上に落下した岩石は巨大なものも含め簡単に運びさり、山はますます痩せ細ってホルン、アレート、バットレスなどの高山地形が形成される。また山全体が氷河に覆われると滑らかな丸みを帯び、山腹や谷のみが急傾斜した山になる。

日本の山は外国の山と比べ起伏が小さく、繋がっていてアクセントに乏しい。山の削られ方は、日本にも氷河地形の痕跡があるが、川の浸食作用が大きい。川は横への力が小さいために谷はV字形になる。さらに日本の山の大きな特徴は残雪による作用が大きい。雪崩に削られた山は、越後山脈の谷川岳、銀山平、御神楽の前岳などに見られるように、谷の斜面が滑り台を並べたような特異な地形になる。これはべた雪の影響が大きく、谷の傾斜は並列にほぼ40度で上から下まで同じ傾斜である。

世界の山旅
おかげさまで創業35周年 35th Anniversary
「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。
国土交通大臣登録旅行業第490号／㈳日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033　名古屋 ☎052-581-3211　福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

ハイマツ帯は日本のみにあると思われているが、東欧などには日本に似たハイマツ帯があり世界各地の山にハイマツがある。ハイマツを焼き払って牧畜に利用するなど山の上に生活の場があり、トレッキングなども気軽に行われている。

（平野　彰）

事業委員会

中央分水嶺踏査 碓氷峠から旧碓氷峠へ

100周年事業「中央分水嶺踏査」は全員参加の趣旨であり、5月と12月の定例支部長会議の翌日に実施するのも一案と思い提言した。総会と年次晩餐会の翌日に首都圏の中央分水嶺踏査を、全会員に呼びかけるという方法はグッド・タイミングと思う。

しかし天候悪化は、どうにもならない。平成16年12月5日(日)の早朝、関東地方は観測史上では最大の瞬間風速40・2メートルという台風並みの暴風雨に襲われた。中央分水嶺踏査委員会から事業委員会に働きかけ、恒例の晩餐会記念懇親山行を「碓氷峠付近を歩く計画」として公表した。楽しそうなトレースである。私は晩餐会のネクタイと背広、そして翌日の登山装備持参で札幌から参加した。

東京駅は強風による列車の遅れが方面別にアナウンスされ、新幹線の発着も不安であった。晩餐会で配布された資料には「JR長野新幹線軽井沢駅集合・午前9時30分」と印刷されている。とにかく集合場所に行かなければという気持で乗車したが、笑顔で参加される多くの会員の姿に「さすがJAC！」と思った。定刻に約40名が集合し、平山会長のユーモラスな挨拶があり、ストレッチで体を柔軟にして、賑やかに出発。国道18号には雨水がたまっているが、風は弱くなってきた。気温は上昇して暑い。

約40名で中央分水嶺を歩く

約30分歩き、碓氷峠（958メートル）から落葉を踏んで長野県北佐久郡と群馬県碓氷郡の県境を北上する。点在する高級別荘の裏山巡りをしているような豊かな気持でドング

連続講演会「語り継ぐ　黎明期の登山…それぞれの山」

第4回　村山雅美さん

「穂高からマナスルへ、そして南極へ」

資料・映像委員会

村山雅美名誉会員（東京大学スキー山岳部ＯＢ）は、1953年からマナスル遠征に３回連続参加、1956年には第１次南極観測隊員として参加、以来、南極へ十数回足を運び「南極男」として多くの伝説を残しています。

今回の講演会では、村山さんが山と出会った1930年頃、松本高校山岳部時代、東京大学スキー山岳部時代、マナスル登山隊遠征、南極への思いなどをお話いただく予定です。青春を岩肌に刻んだ「山男」がどのようにして「南極」に惹かれていったのか……。その接点が見えてくるかもしれません。ご期待ください。

日　時　　４月22日(金)　18時30分～20時30分（入場は18時より）
場　所　　東京体育館　第１会議室
　　(JR中央線「千駄ヶ谷」駅下車１分・都営地下鉄大江戸線「国立競技場」駅下車Ａ４出口前)
定　員　　120名（当日の受付可。なるべく事前にお申し込みください。会員外の参加も可、無料です）
申込み・問合せ　　郵便、メール、FAXにて会員番号、氏名を記入のうえ
　　＊奈良千佐子まで　（〒150-0001　渋谷区神宮前3-29-11　FAX03-3402-6014
　　メール　mt.chisako@mbc.nifty.com)
　　＊または、山岳会事務局まで　（TEL03-3261-4433・FAX03-3261-4441）

リや栗を拾ったりする。西方に続く中央分水嶺上の浅間山（2568メートル）の上部は雲に覆われて見えないが、鼻曲・角落・浅間隠など面白い響きのある山域に歴史の重みを感じ、強風も気にならない。江戸5街道のひとつ中仙道の旧碓氷峠・見晴台が今回6キロコースのゴールとなっており、温かい美味の豚汁をいただく。あちこちで乾杯の輪ができ、晩餐会の余韻ただよう全員の集合写真を何回も撮る。平山会長と腕を組んで、高村光太郎作詞「歩くうた」を唄うと次第に10人の声となり、20名の輪が「彷徨の歌」の大合唱となった。

お世話いただきました関係の方々に厚くお礼申上げます。

（新妻　徹）

2005マナスル登山隊 上高地山研で年越し

日本山岳会100周年事業のひとつとしてマナスル登山隊が企画されている。大蔵登山隊長から召集がかかり、朴元総隊長ほか隊員5名（小川、千葉、永田、三原、および私）が3泊の予定で年末の山研に集まった。今年の上高地は雪が極端に少なく、12月30日に釜トンネルから入山したときは岳沢もほとんど雪がついていない状態だったが、31日、元日と雪が降ってどうやら冬らしくなった。

登山隊としては山の中で集まるのは初めてだったが、天候があまり芳しくなかったこともあり（あるいは隊員が皆かなりの年齢であることを考慮されてか？）実技は軽めで、31日は西穂側の沢を尾根の取り付きまで、元日はスノーシューをはいて明神の穂高神社まで往復した。

明神・穂高神社前にて－登頂祈願

残りの時間は、シシャパンマ登山のビデオを見て最近のヒマラヤ登山の様子を知ることや、大蔵隊長によるレクチャーや出発までに準備すべきことの確認などに費やされた。特に、大蔵隊長のさまざまなお話は、今回の登山に限らず、マッキンリーやヒマラヤの登山などさすが日本でも第一人者と思わせる内容の濃いもので感嘆した。

シシャパンマ隊のことは南井さん（彼もマナスル隊員予定者である）が会報に書いておられるが、シェルパにルート工作や荷揚げをすべて任せ、隊員はルートが開かれたところで一気に頂上を目指すという登り方は、大蔵隊長が築きあげたシステムだという。これも隊長の豊富な経験によって初めて構想されたものであろう。いろいろなことを知るにつれ、ますますマナスル登山への期待を高めて帰ってきた。

スノーシューで山研周辺を散策

実は、上高地の山研に泊まったのはこれが初めてである。この年末年始の期間中には、マナスル隊も含め多い日には20人を越える宿泊者がいたが、とても居心地の良い小屋生活を楽しむことができた。宿泊者の食事の準備をはじめすべての面にわたって、山研担当の小川理事、坂本委員以下の方々が献身的に面倒を見られていることに対し感謝の念でいっぱいである。

（河野　長）

ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う『旅』のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
（国土交通大臣登録旅行業1167号）

東京／〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪／〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋／〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

東西南北

イラスト・宇都木慎一

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000文字程度でお願いします）

地形図と地質図からみた分水嶺

織方　郁映

山地における県界は水利権との関係で大部分が分水嶺である。科学委員会が公募で踏査した帝釈山～田代山間でも福島～栃木の県界線は忠実に分水嶺を通っている。例外的なのは尾瀬の原や沼を2分する県界で、これは正保3年に幕府の調停で幕を閉じた領地争いの結果だという。隣の藩との往来には2つの峠を越えねばならず、その峠間の低地の領有権が問題になったのだろう。

道は生活上の必要から作られるから、分水嶺を越える部落間の峠道は多くても、峰から峰への道は少ない。作られるとすれば分かりやすくて距離も短い稜線沿いになるが、稜線は浸蝕に耐えて残った部分だから硬い岩頭の突出が多く、おまけに風も強いから道は稜線を避けて通りやすい側に作られ、両側が急峻な場合のみ、仕方がないから稜線上を通ることになる。地形図上で帝釈山～田代山間の登山道がすべて北側にあるのは、北側の傾斜が緩いからだろうし、南側に崩壊の印が多いのは、その部分の岩が逆層で水が滲み込みやすく、凍結・溶解による崩壊が進みやすいからだろう。

地質図を見ると、この2つの山の頂付近はそれぞれ約700万年前に噴火した奥鬼怒巨大カルデラ火山由来の溶結凝灰岩によって覆われているが、その下は約230万年前までにできた花崗岩層であり、その東南には1～2億年前のジュラ紀の堆積岩層が広く露出しており、その表面には、太平洋プレートの潜り込みに際して付着したチャートが両山に向って押し寄せる波のようにへばり付いている。

つまり、この地層が乗った北米プレートは、北西に向けて進んで来た太平洋プレートに潜り込まれるために、北西側に傾斜しているものと予想され、このことは県界線が田代山湿原の南縁を通っていることからも想像できる。

事実、今回の探査によって帝釈山頂では畳のように積み重なった溶結凝灰岩層も田代湿原もやや北側に傾斜していることが確認できたし、田代山湿原の南端に沿って低灌木が生い茂り、水が停滞しない分水境界であることを明白に示していた。

中央分水嶺の連なりを現地で山並みを見渡してたどるのは容易ではなく、地形図上で確認する他ない。たたなわる稜線を眺めながら、この踏査を機会に「中央分水嶺トレイル」などは作れないものか？と思った。

ヤマビルの話

祖父川　精治

ヒルと名付けられた山や土地の名は各地に散在するが、もっとも有名なのは丹沢の最高峰、蛭ヶ岳（1673メートル）であると思う。事実、昔から東丹沢はヤマビルの存在で知られ、雨期の登山やハイキングは控えるようにといわれてきた。全国的には、東北から南の沖縄まで広範囲に生息しているという。

A県民の森では、遊びに来た人たちが次々とヤマビルに襲われ被害を受けるという事例が発生した。調査の結果、年々その生息地域を広げてきていることがわかった。そこで対策として、ヤマビルが生息できないような自然環境を作るために遊歩道周辺の整備をすることにした。まず明るく日当たりが良くなるように木立の剪定、下草の刈払い、落ち葉の除去、そしてそれら下草や落ち葉の焼却。駆除物質として薄めた木酸液や食塩水、融雪剤の塩化カルシウムの散布を行った。

ヤマビルが次々と生息地域を広げてゆく理由を考えてみると次の

ようになる。野生動物とくにシカの蹄の間や臀部の柔らかい部分に取り付いて移動する。次にヒトでこの場合は主にハイカーや登山者が、歩行中や休憩時に山中で取り付かれる。そして山里へ下りてから気付いて靴中や足元からヤマビルを引き離し投げ捨てる。山奥から生きたまま移動し次は投げ捨てた地域周辺で生息することになる。このような場合はかわいそうだが即ヤマビルの息の根を絶ってほしい。B山の登山口に住み暮らす人たちはヤマビルのことで皆怒っている。そしてカットバンを常時止血用に持っているのだと見せてくれた。

首や腹に取り付かれた例で樹木から落下するといわれるが、果たしてヤマビルが木登りをするのだろうか疑問は残る。取り付かれても引っ張ってはいけない、満腹すると丸くなってポロッと落ちる。出血はするが痛くも痒くもないのが特徴である。

取り付かれた例では、歩行中トップより2番手以下の方が多いといわれる。小川や沢沿いに流れて移動するという説もある。C山への登山中、薄暗い沢沿いの小道を歩いて行くとなんとヤマビルが数十匹も地を這い人の気配を感じて立ち上がりその黒い体を揺らしゾットするような光景である。登山靴へ取り付いた瞬間素早く尺取虫風に頭と尾を使い器用によじ登ってくる。この山道は過去いく度も通っているがこんなことは始めての体験である。

環形動物に分類され、ミミズやゴカイの仲間ということから土壌改善等に役立っていると思われ、山に生きるのは当然として理解する。ビデオ映像で実験の様子を承知しているが、濃い食塩水をヤマビルに注いだら体から粘液を滲出して縮み、死んでしまった。これは即効性といい塩分の効果が大いに期待できる。山仕事をする人たちが常時食塩袋を車に搭載するのを見ている。

簡単なのは、厚手の包帯を濃い塩水に浸し乾燥させたものを持参して靴の上から足首へと隙間なく巻き付ける。ある登山口で「ヒル除けの薬あります」という看板を見ているし、また登山用具店でもヒル除けのスプレーを展示販売している例がある。

日本山岳会に3代入会した家系もあった

早乙女　緩次

以前、日本山岳会に4代続いている家系について書いた。今度は3代入会した家系について述べよう。明治40年刊行の『山岳』2年2号の入会者欄に松沢貞逸とある。この人こそは日本最大の山小屋「白馬山荘」建立の先駆けをつくりだした人物だ。番号を知りたくて最初の名簿で調べたが無掲載、多分数年のうちに退会していたのであろうと思う。

この人は当時としては珍しく自ら起こした自動車事故で若くして亡くなったが、幸いなことにたったひとり子どもの米子を残していた。したがってこの松沢家では貞逸の従兄弟にあたる人に2代目の経営を委ねた。この人も周囲からの信望も厚く、仕事熱心に白馬連峰群に山小屋を建設し経営にも親戚の誼みと信頼に育まれ、事業の繁栄と保持に努めていった。貞逸の娘米子が婚期に達した段階で、この2代目の経営者も律義に本家に経営を戻した。

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデューをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。

Hotel eiger WENGEN

あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ お申込みは **アルプスウェイ**　ALPS WAY. We Love Swiss

http://www.fellow-travel.co.jp/

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F
Tel.(03)5489-9541　Fax.(03)5489-6300
e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F
Tel.(06)6347-8984　Fax.(06)6347-8986
e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社フェロートラベル　ボンド保証会員 (社)日本旅行業協会正会員

国土交通大臣登録旅行業664号　協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局　後援：スイス政府観光局

さて、3代目の養子を迎えたのは昭和23年のことで、その前年にはようやく日本山岳会信濃支部も発足したばかりだった。と同時に、日本の登山界も平和の到来で隆盛を極めてもいた。当時山小屋に宿泊して、便所に行って帰れば寝る場所もないくらいの混雑ぶりであった。

さすがに山小屋の老舗の松沢家では、高山植物の宝庫らしく、千葉高等園芸専門学校（現千葉大）で高山植物の植生にも極めて長けていた、南安曇郡豊科町出の岡村恒久を迎えた。松沢家としては2代目にあたる恒久の日本山岳会への入会は、昭和25年のことで2807番であったが、登山者来訪のあまりの多さに多忙を極め、支部の行事、会合には出席できなかった。

この人の特筆すべきことは、白馬岳一帯が日本海に至近なために、朝捕れた魚を運の良い泊まり客は山の上とはいえ賞味できるようにしたことであろう。つまり日本で最初に山の上に、生鮮野菜やら魚介類、冷凍食品のヘリコプター輸送を行ったのである。白馬連峰の仕事を軌道に乗せると同時に、スキーなどの事業も一応発展を収めて成功させた。人望も厚く地元の人々の勧めにより長野県会議員になり、2期8年間勤め長野県の観光発展のために尽くした。

元々大変に温厚篤実で多くの人から慕われる人物であった。世代交代の時期に子息貞一に後を継がせると、この人もまた平成4年にさっそく日本山岳会に入った時は11242番であったが、いつのまにやら辞めているのを最近になって名簿で知り残念に思っている。

入会50年と入会時の追憶

鈴木　正規

日本山岳会が創立されてから今年でちょうど100年を迎える。

私は今から50年前の昭和29（1954）年12月に日本山岳会に入会申込書を提出した。入会紹介者には、当時日本でのヒマラヤ研究の第1人者である田中栄蔵（ペンネーム・諏訪多）さんと昭和27（52）年に今西錦司隊長のもとにマナスル踏査隊に参加した医師の林一彦さんのお2人の世話になった。

昭和30（55）年1月に入会が認められ会員証の送付を受けたが、その当時での登山の時局と言えば、昭和32年の積雪期には芳野満彦、高田光政、加藤幸彦、前園陽太郎、久野泰山らの前穂高4峰正面新村ルートの初登攀とか、吉尾弘の谷川岳一ノ倉滝沢の登攀、芳野満彦の剣岳チンネ正面岩壁の登攀など、国内積雪期の代表的初登攀記録があった。

海外登山では、昭和31年の槙隊長のマナスル登頂が成功し、その年に日本山岳会の東京本部では会の創立50周年記念祭があり、東京国際文化会館では今西錦司の「カラコルム登山」記念講演、晩餐会には京都大学カラコルム・ヒンズークシュ学術探検隊の木原均、梅棹忠夫、中尾佐助を中心にしたパネルディスカッションがあった。

会員番号が私と101番違いの4440番である平山会長は、昭和32年に南極観測第1次遠征隊の設営担当として参加し、現地では樺太犬のタロー、ジローの犬ぞり偵察隊に入っていたことを当時の「南極新聞」に記している。

平山会長の前後番号の著名人会員は、近藤信行・4433、松田雄一・4111、桑原武夫・4641、串田孫一・4125、平井一正・4639、大森弘一郎・4532、以上4300～4600番代を記してみた。

その後、私は仕事の関係上昭和63年から平成2年までの3年間台湾に駐在したため休会した。平成2年10月に復活会員になっている。

ウェストン夫妻と妙高山登頂

田畑　真一

明治37年、ウェストンは夫人同伴により、戸隠山、高妻山へと登頂、島田巽らは「月日不明……戸隠・剣ヶ峰（高妻山）夫妻で登る〔外国人初登頂？〕」（「W・ウェストン年譜その2」『山岳』第83年）などと紹介した。

私は関連する資料を調査した。明治43年3月刊行の文献（『わがスイスと日本での登山』（拙訳）『山岳』第5年第1号）があり、ウェストンによる記事が「妙高山と剣ヶ峰へ家内と登った」（拙訳）とあった。

Climbing & Medicine・42

高所登山と脳障害

志賀　尚子

脳は、体中でもっとも酸素欠乏に弱い臓器です。窒息、一酸化炭素中毒、心停止などによって脳に十分な酸素が届かなくなると、多くの場合、助かっても重大な後遺症が残ります。高所登山、とりわけ無酸素での高所登山は、極端な低酸素に曝されるため、脳へのダメージを来たす恐れがあります。

高所登山中に精神神経学的な異常を示した人で、下山後も、時には数週数か月にわたってその異常が続く場合があります。登山中目立った異常がなかったのに、下山後あるいは時間がたってから異常が出る場合もあります。異常というのは、短期記憶障害（聞いたことや言ったことをすぐ忘れる、同じことを繰り返し聞く・言う）や集中力の低下、認知能力・反応時間の低下、判断力の低下といった症状です。自覚症状や他覚症状がなくても、MRI（核磁気共鳴画像：X線を使わず、磁場と電波で体の中を見る）で検査してみると異常が見つかる場合もあります。

登山後の脳の後遺症の発生を予測する因子として、年齢、性別、登山中の異常症状、到達最高高度、そこでの滞在期間など、明らかな因果関係を示した報告は見当たりませんが、登山後のMRIで異常を認めた人は、登山中にも自覚症状、他覚症状の異常があった人が多いようです。自覚症状、他覚症状の回復の程度、回復にかかる時間はまちまちです。

6000m級の無酸素登山で参加者８人全員、異常症状もMRIの異常も認めなかったという報告もありますが、7000m級の無酸素登山で、58%に下山後も神経心理学的異常が認められ、46%でMRIの異常が見られたという報告や、5000m級の登山でも２か月以上記憶、反応時間、集中力が低下していたという報告もあります。

脳を守るためには、何より酸素が必要なのですが……。７人の有名なシェルパと低地在住で8000m級の登山をする登山家21人のMRIをとってみたところ、シェルパで異常があったのは１名のみ、登山家は13人（61%）で異常が見つかったそうです。この差が何によるものか明らかではありませんが、高所順応を十分行うことが１つの予防にはなるのかもしれません。

4000～5000m以上の高所登山を計画されている方は、体力チェックばかりでなく、脳のチェック（脳ドック、特にMRI）もいかがですか？そして、登山中あるいは登山後に上記のような異常が出た方は、念のため医師に相談されることをおすすめします。

これにより、ウェストン夫妻は戸隠山、高妻山だけでなく、妙高山にも登頂していたことがわかった。島田らの紹介になかった妙高山への登頂だ。私は発表させていただく意味があると考える。

当時の交通アクセスを考えれば、すでに開通していた信越線方面からのアプローチだったに違いない。それに現在の妙高高原駅方面から笹ヶ峰へ向かうルートであり、黒沢や高谷池を経て妙高山頂へと達するものだったと私は考えたい。

（文中敬称略）

ゴールデンウィーク 海外の山旅
輝くスイスアルプスハイキングと氷河特急
4/26（火）～5/3（火・祝）　368,000円　（8日間）
ホテル シャンボチェパノラマ(3850m)泊エベレスト展望トレック
4/29（金・祝）～5/8（日）　352,000円　（9日間）
ナンガパルバットトレッキングと桃源郷フンザの里
4/29（金・祝）～5/9（月）　298,000円　（11日間）
台湾最高峰 玉山(3952m)登頂
5/5（木・祝）～8（日）　128,000円　（4日間）
山旅専門旅行社 アミューズトラベル株式会社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4ＫＮ新宿ビル11階
TEL:03(5919)1188　FAX:03(5919)1189

会務報告

12月理事会

日時　12月8日18時30分～20時30分

場所　日本山岳会　会議室

［出席者］平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、贄田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎各理事、内田、一力各監事、宮崎、鰺坂、西村、小倉（董）、重廣各常任評議員

［委任］大蔵、鳥居各理事

【審議事項】

1「写真で見る百年史1905～2005」発刊について　鈴木

式典時映像費310万円予算の範囲内で実施することを検討する。詳細決定次第再度提案する。会場展示のパネル代等も含む。

【報告事項】

以下の件が担当者より報告され承認された。

1　100周年記念事業推進状況について

①海外登山　大蔵代行・藤本

マナスル50周年記念登山（2005年朴元総隊長）以下、福井、富山、福岡支部の予定がある。

②中央分水嶺踏査　石田

11月30日現在踏査率32・2％が完了したが一部藪がひどく、支部で手におえない箇所をどうするか別途検討中。

③トレッキング　黒川

4社で12コースを担当、各コースとも10数名の問合せがあった。

④百年史　芳賀

2006年5月総会までに発行するが、発行部数等解決しなければならない問題がある。

⑤式典　藤本

年次晩餐会で実施するべき内容（名誉会員、永年会員、新入会員紹介など）と記念式典との分離をどうするか、招待者のリストをどう作成するかなどを検討中である。いずれ理事会にはかりたい。

⑥図書展　田村

10月15日前後の1週間、丸善で実施する。洋書、和書各100冊、絵画15点を展示、出展品概要B5・112ページを千部印刷する。出展予定の絵画の名前を教えてほしい旨要望あり。

⑦森づくり活動　篠崎

●高尾の森

4月9日フォーラム（JACの自然保護のあり方、森と人間の共生、ミュージカル等）、4月10日植樹祭を行う。

●白神の森は6月18、19日、猿投の森は10月にフォーラムを実施する。

以上3件について今後篠崎理事がまとめて報告する。

⑧募金　芳賀

会員募金は11月末現在で約1595万円である、企業募金は読売新聞から1000万円が入金された。

⑨医療　野口

ハンドブック発刊、およびフォーラムを準備中。

⑩施設　橋本・小川

昨年購入した201号室と104号室を等価交換の交渉の結果をふまえて、談話室など全体の改装を考えたい。

以上各テーマについて、予算と執行状況についてA4版1枚にまとめ、12月中に提出し、1月の理事会で報告する。

2　年次晩餐会終了について　藤本

①一部手落ちもあったが無事終了（出欠連絡なく入金だけした人が20名もいた。and検索よりor検索へ）

②会計（概要）は別紙の通り。開催通知費を除いて、会費で費用をまかなった。

③来年の記念式典のあとの晩餐会（2006年から）のあり方について検討を要す。（フリーマーケットの成功はそのひとつの解決策になるか？）

④記念登山は43名が参加し、遠くであるにもかかわらず盛会であった。

3　会報『山』12月号について　今村

トップ記事は年次晩餐会について。1月号は100周年と新春を迎える記事。

4　100周年記念時計の会員頒布について　藤本

別紙カシオのPROTREKに電波受信機能をつけた多機能腕時計を表面に、会員番号と100周年記念を刻印して2万8千円で頒布する。申込締切2005年5月、

創立100周年記念事業にご協力を

図書受入報告（2004年12月）

著　者	書　　名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈／購入別
大島育雄	エスキモーになった日本人	237pp/19cm	文藝春秋	1990	著者寄贈
黒崎峻	黒さん：黒崎峻遺稿集	247pp/19cm	黒崎昭子（私家版）	2002	大島育雄氏寄贈
山田正文	ザンスカール：ヒマラヤ、峠越えの異郷へ（写真集）	99pp/31cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
古関光浩（編）	日本山岳会学生部ムスタン遠征2004報告書	138pp/26cm	日本山岳会学生部	2004	発行者寄贈
近藤信行（編）	山の旅：大正・昭和篇（岩波文庫　緑170－１）	458pp/15cm	岩波書店	2004	著者寄贈
近藤信行（編）	山の旅：明治・大正篇（岩波文庫　緑170－２）	446pp/15cm	岩波書店	2004	著者寄贈
穂苅三寿雄	槍ケ岳黎明：私の大正登山紀行	230pp/20cm	山と溪谷社	2004	出版社寄贈
坪山晃三（編）	トシコからの山だより：昭和60年～平成15年	255pp/22cm	ミリオン山の会	2004	編者寄贈
白川義員	悠久の山河：中国大陸　上巻（小学館文庫 No.838）	221pp/15cm	小学館	2004	出版社寄贈
廣川健太郎	氷の世界へ　チャレンジ！ アイスクライミング：最新フォトガイド	223pp/21cm	東京新聞出版局	2004	出版社寄贈
蓮實淳夫	風の里水の里 足の向くまま栃木の52山	258pp/19cm	下野新聞社	2004	出版社寄贈
マッキンリー登山遠征隊	マッキンリー登山報告書2004:富山県山岳連盟創立55周年記念事業	67pp/26cm	富山県山岳連盟	2004	発行者寄贈
岡田汪（編・著）	夫婦登山ことはじめ：袴で登った剱岳	201pp/21cm	岡田汪（私家版）	2004	編者寄贈
京都山の会（編）	山　その偉大な自然の中で：京都山の会写真クラブ写真集	77pp/19cm	京都山の会事務所	2004	発行者寄贈
Einar Eberhardt	Plant Life of the Karakorum (Dissertationes Botanicae B.387)	223pp/23cm	J.Cramer	2004	W.Heichel氏寄贈

納品10月。

5　写真展協賛について「岩橋崇至　山の世界」　藤本

6　平成15年度「海外登山基金助成登山」実施報告　藤本代

別紙のように7隊の報告が行われた。

7　上高地山研ミニ水力発電について　小川

環境省、文化庁、安曇村と施設運用の継続を交渉、平成21年11月までの更新が認められた。なお、安曇村からは30年間の水利使用が認められた。

8　長期目標計画の理事懇談会討議内容について　藤本

①できるところから本年度中に決めて実施する。

②会長としては、

・組織のまとめ

・委員会の統廃合

・首都圏支部の可能性を進めたい

③定款の変更は2年目を目途に実施する。

④1月も引き続き検討する。

⑤西村評議員より発言あり「平成15年2月に長期計画が理事会決定されている。現在策定中の長期と同じ部分もあり、異なる部分もあるので、ぜひ参考にしてほしい」

おれ にんげんたち
――デルスー・ウザラーはどこに――

黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて

探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、デルスー像の検証から、二人の友情、自然と人間のかかわりを豊富な資料を駆使した巧みな筆致で探究する。

岡本　武司　著
四六判　220頁　1,890円（税込）

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図
〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ　B全判地図13葉
宮森常雄（秩父宮記念山岳賞受賞）・雁部貞夫　共著

◎好評発売中!!
34,650円（税込）

・・カタログをご請求下さい

ナカニシヤ出版
〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
Tel.075-723-0111　Fax.075-723-0095
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

INFORMATION

イラスト　宇都木慎一

◆「100周年記念自然保護の集い」のご案内　自然保護委員会

日程　4月9日(土)～10日(日)

●9日　100周年記念集会(場所　高尾の森わくわくビレッジ・前夜泊可・高尾駅北口からバス15分)

□9～12時・自然保護委員会全国集会（JAC自然保護活動行動指針の検討）

□12時45分～15時・ミュージカル「天狗の隠れ里」上演（劇団ふるさときゃらばん）

□15時30分～19時・記念シンポジウム（テーマ・森と人間の共生）、基調講演・岩槻邦男（兵庫県立人と自然の博物館館長、東京大学名誉教授）、パネルディスカッション「日本の森づくりのありかたを探る」パネラー（高尾の森・猿投の森代表者、外部講師）

□19時30分～21時　懇親会

●10日　第5回「高尾の森」植樹祭（場所　裏高尾小下沢国有林・10時開始）参加者により2千本の広葉樹の植樹を行います。

費用

●全行事参加　①8～10日・14000円　②9～10日・9000円

●9日のみ参加　③懇親会まで・4000円　④行事だけ参加・1000円

●植樹祭のみ参加　⑤500円（現地徴収）

申込

3月10日までに氏名、住所、電話、①～⑤の区分を明記し、ハガキ、FAX、メールで川越尚子宛（〒185－0011　国分寺市本多3－7－31　FAX 042－321－6059　kawagoejac@mti.biglobe.ne.jp）

＊申込受付後詳細送付します。

◆春の奥高尾山稜散策　ゆきわり会

奥高尾山稜を散策後、高尾の森づくりの会植栽地を訪問。会員以外の方の参加も大歓迎です。

期日　4月16日(土)

行程　8時、京王線高尾山口集合―薬王院―城山―小仏峠―景信山―小下沢―大下―高尾

申込　ハガキに①山行②懇親会別に参加を明記し、3月31日までに皆川宛

問合　皆川惠男（TEL 042－373－3003　caf21901@pop12.odn.ne.jp）

◆お花見山行　大山三峰山　つくも会

低山ですが、クサリ場やハシゴの多い変化に富んだコースを歩きます。会員以外の方の参加も大歓迎です。

日程　4月16日(土)7時45分小田急線本厚木駅北口「宮ヶ瀬」行き⑤番バス乗り場集合―煤ガ谷―物見峠―三峰山（昼食）―広沢寺温泉入口―本厚木駅（解散）

＊雨天決行、昼食・行動食各自持参

申込　4月13日までに往復ハガキかメールかFAXで会員番号・氏名・連絡先・大山三峰山山行を明記のうえ吉澤平治宛（〒214－0034　川崎市多摩区三田3－1－2－5－301　TEL&FAX 044－933－5895　heiheiyo9621@ybb.ne.jp）

百年史委員会からのお願い

現在、百年史委員会では、女性による登山史を編集中です。

つきましては、会員各位のなかで、明治・大正・昭和初期の女性登山に関する、貴重な情報をご存知の方がおられましたら（とくに支部関係）、ご教示を賜りたく、下記担当者宛てご連絡ください。

●連絡先

〒330-0052

さいたま市浦和区本太5-16-6

児玉俊子宛

電話048-886-8820

●期　日　平成17年5月末日

創立100周年記念　多機能付時計頒布のお知らせ（続報）

会報『山』1月号でお知らせした上記の頒布について、多くのお問合せをいただいていますので、下記ご案内します。

1．**代金支払方法**　注文を受けた方に、時計の明細と振込用紙をお送りしますので、その用紙で郵便局からご送金ください。

2．**サイズおよび重量**（ワンサイズのみ）
本体の大きさ：62.3mm×52.2mm×14.2mm、全体の重量：77g

3．**ベルト材質**　ABS樹脂

4．**現品サンプル**　発売(10月以降)までサンプルは見られません。

5．**刻　印**　会員番号、血液型の刻印不要の方は、お申し込みの際にお申し出ください。その他の刻印(姓名のイニシャルなど)は受けられません。

6．**注文数**　いくつでも結構です。

7．**頒布価格**　28,000円

8．**申込方法**　FAXまたはハガキで事務局まで。
（電話は不可）

9．**締　切**　5月末日

10．**納　品**　2005年10月

■会員異動

物故

久米　睦夫（5419）04・6・5
原　蕃（1851）04・11・23
吉田　茂（5589）04・11・29
小林太刀夫（1466）04・11・29
川越　孝次（2999）04・12・4
腰原眞知子（13711）04・12・15

退会

村木康義（8939）関西
雫石鉱吉（9603）関西
藤井　彰（12809）秋田
柴田光博（13113）
長沼武之（13191）宮崎
関口和夫（13192）
税田武志（13309）宮崎

ルーム日誌 12月

1日　山岳地理クラブ
2日　ゆきわり会
3日　JAC01会
6日　総務委員会
　　三水会（分水嶺）
7日　常務理事会
　　図書委員会
8日　理事会　休山会　つくも会
9日　学生部　青年部
　　山の自然学研究会
10日　フォトビデオクラブ
　　アルパインスキークラブ
13日　総務委員会
　　自然保護委員会
　　アルパインスキークラブ
14日　新日本山嶽誌編纂委員会
　　二火会　アルパインスケッチクラブ　九五会
15日　三水会
16日　科学委員会　ゆきわり会
17日　百周年募金委員会
21日　理事懇談会
　　事業委員会
　　インターネット小委員会
　　00同好会
22日　図書管理委員会
　　アルパインスキークラブ
24日　フォトビデオクラブ
　　山遊会
27日　総務委員会

12月来室者520名

❖編集後記❖

●今月の巻頭は江本氏に「海外の山」執筆20年の思いをお願いしました。20年の長きにわたって最新のニュースを連載していただいた苦労に頭が下がりますが、国内のみならず登山界の急激な変遷が随所に感じられます。

●4月には事業委員会のマナスル登頂50周年記念の中高年の公募登山隊が出発します。海外登山基金助成登山隊も、昨年、今年と2～3人程度の構成がほとんどになり、ヒマラヤ登山（遠征？）が大きく変わったなと思います。

●会報の編集担当をしていても、会員の登山に対する意識の変化をいつも感じています。**（今村千秋）**

日本山岳会会報　山　717号

2005年（平成17年）2月20日発行
発行所　社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5－4
サンビュウハイツ四番町
TEL　東京(03)3261－4433
FAX　東京(03)3261－4441
発行者　日本山岳会会長　平山善吉
編集人　今村千秋
E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
印　刷　株式会社　双陽社